ひろば

ミニコミ紙

平成13年11月20日
第54号
発行責任者
鈴木武一
玉川郵便局
TEL. 3700-3657

子どもの安全

玉川小学校校長　松本英明

太陽の恵みを感じながら水と緑を大切にするまち、人とのふれ合いの良さを実感できるまち、こんな素晴らしい二子のまちですくすくと育っている子どもたちは幸せです。

しかし、災害や交通事故、子どもをねらった犯罪は、いつ起こるかわかりません。

学校では、子どもの安全確保を第一に考え、PTAとの連携を図り、交通安全指導を徹底し子どもの意識を高めています。

また、校内への不審者の侵入防止のため、門扉の施錠、受付での外来者のチェックを厳重に行っています。

なお、全学級のインターホーンの取り付け、警察への直通ブザーの設置も計画しています。

ひとに優しく、犯罪や災害に強いまちづくりに、学校側も協力できればと思っております。

見守りネットワーク

前愛六丁目　民生委員　結方恵子

今までに私がかかわってきた高齢者の方々には様々なことがございました。

一番に良かったなと思う事は、高齢者がお住まいの近隣の方とのお付合いでした。常日頃から自の行き届く身近な方からの計らいで連絡を頂いたりしてとても助けられたことです。そしてその事が見守りネットワークであるということを知りました。遠くからの見守りは高齢者にとってはとても大切なことだと思います。

これからも皆様の協力でネットワークの輪が広がり、出来る限り自宅での介護でゆっくり暮せたら幸せなことではないかとも考えています。

暮らしの安全

防犯は危機管理の意識から

玉川警察署生活安全課のお話

戦後、日本は治安の良い状態が続き、外国と比べて「危機管理」という意識が低かったように思います。

ところが近年は、犯罪の形態が従来と変わり、より凶悪化しているほか、外国人による犯罪が増えていることが目立ちます。私達の玉川警察署管内でも、新聞を賑わすような事件はないものの、空き巣やひったくりなどの事件発生件数は、残念ながら東京都の中でも多い方になっています。

警察も全力で防犯に当たりますが、大切なのは常に『危機管理』の意識をもち自分で防衛する心構えです。

心の隅に火の用心

玉川消防団　第四三分団長　長崎裕次

消防団は、この町に住み、仕事をしながら火災、台風などの災害が発生した時、しそうな時に我が町は自分たちで守るとの心意気で消防署員と協力しつつ頑張っています。現在26人の定員ですが6人不足しています。年齢は27才～64才です。若者、女性の参加を切望しています。

阪神淡路大震災から6年がたち防災意識がやや低くなった感じです。この一年間で出場は7件、瀬田地区は2件、支援で用賀2件、桜新町2件、玉川1件発生しています。参加団員は延べ47人が出場しました。心の隅に火の用心を忘れずに安全な町になるよう頑張ります。

ご存じですか 病院案内

玉川消防署用賀救急隊

新聞やテレビ等の報道でご存じのとおり、一一九番通報による救急隊の出動は年々増えています。消防に関する世論調査では、特に区外から転入された方に多いのですが、救急車を呼んだ理由として『病院がわからなかったから』と答えたケースが少なくありません。

大規模な事故や災害発生時だけではなく、平常時にも地域の医療機関を知っておくことはとても大切です。

皆さんのお役にたつため、玉川消防署においても病院案内を実施していますので、是非ご利用ください。

連絡先(3705)0119

浮世ぶ～ある熱年の独りごと

鈴木武一

～老いるべからず熱すべし

あるタレントが謂いました

全国100才この秋で

一万五千を超したとさァ

生れて来るのも一人なら

アノ世ゆくのも又ひとり

人間ひとりじゃ生きられぬ

浮世のひとは言ふけれど

財を成すのも一人なら

ローン苦労も又ひとり

使っても

貯めても金はおもしろい

入るを計って出すお金

ウッカリ歌日よシッカリだ

みんな…アレコレ我自分

天上天下われひとり

孤独さみしと謂うなかれ

前後左右も気にするな

四方八方…上下動

みんな合わせりゃ十方世界

登る坂ありゃ下る坂

山高くして　海ふかし

生物みんな春がある

年に一度の花さいて

梅桃サクラ…バラや菊

夏台風をやりすごし

此んな処に　ヒかン花

秋まつりだい笛太鼓

屋台のおでん　東おこわ

コドモ時代が目にうかぶ

お神輿かついで汗かいて

のぼる石段ひとやすみ

貰ったお菓子はうまかった

思い出すなあ顔と顔

健くん美ちゃんどしたカナ…？

緑とえんとに結ばれて

ママさんパパさん成ったろな

太郎と花子はできたかな

みんな元気なコドモたち

頑む！丈夫に育ててよ

健康ケンコー優良児

今年も出てね小、中、校

全国オトナは祈ってる

―おしまい―

ひろば　ご希望の方は出張所においてありますのでどうぞ。

回覧										

郷土紹介

再考（リバイバル） 大山道

かつて、この辺りにも農村の面影が残っていた頃、冬の足音が近づくと、空気が澄んでくる為か、西の丹沢山塊が良く見え、その山並の南の端に大山が美しい姿を見せていた。

大山は雨降山とも云われ標高は一、二五二米、大山阿夫利神社が祀られており、夏、日照りが続いた年、各村々の代表が雨乞いの水を貰いに行った。その往来に利用された道が何時からか大山道と呼ばれていた。

又、大山は江戸市中の人達にとっても恰好な信仰の山で、山頂には石尊社、中腹に不動堂があり、江戸時代中期、宝暦の頃から『大山参り』又は『石尊参り』と云う形で、白い木綿の衣を身にまとい、腰に鈴をつけた参詣人が団体で大山詣でに出かけた。大山道はいわば観光道路として大変賑わったと云う。

この大山道は、その後、大山街道、国道二四六号線と移り変り、現在、用賀から東名高速道を利用すると車は約三十分で伊勢原の大山山麓を通過してしまう。

今、この大山道の歩みをふり返り、その歴史的役割を後世に伝承しようと云う活動が沿道の市民グループと行政の連携のもとに始まった。活動の広がりが期待されます。（飯田）

短歌

秋愁　雅舟

天互る秋の光を讃ふがに
曼珠沙華咲く社の境内に

秋風の涼しさ呼びて狭庭辺に
朝顔咲けり少女らの如

錦着し秋の野山の映ゆる時
などて世の人悄しみ合うぞ

木犀の匂ひ初めけり朝明の
そこはかとなく秋は淋しも

秋草の花咲き競ふ賑いを
用賀神社の祭りに想ふ

用賀三丁目小山医院　小山伊松

ラベンダー香る故郷

用賀四丁目　藤井節子

北海道空知郡芦別市字上芦別、これが私の故郷。現在は北海道芦別市となり、北海道でもほゞ中心部の都市である。山々に囲まれ、芦別川と空知川にはさまれ、当時は農村地帯だった。それでも我が家の前は国道、横は根室本線が通っている田舎といっても便利な場所だった。

二つの川では川魚も豊富にとれ、戦中戦後もおかげで食糧難を知らずに育った。その頃には炭鉱も三井、三菱、明治、油谷、島根と五鉱山となり、それによって町もすごく繁栄し、人口七万ともいわれる人の流れがあった。でも石炭の需要が少なくなり、昭和39年から46年位にかけて閉山となり、町は昔の静けさにもどってしまった。その後町おこし事業として、油谷温泉『北の京芦別レジャーランド』の大きな建物と空知川を見おろしているような高さ88メートル近くの観音像が出来、町の中には北海道の花ラベンダーが咲きほこっている。

また30分程車ではしり、富良野のラベンダー畑もまた素晴らしい。

冬にはスキー場もあり、現在は一年中にぎやかな町になっている。

たまには実家に帰るが、町並に昔の面影はほとんどない。でもまわりの山々、町の中を流れる川や自然はやはり私の故郷を感じさせてくれる。

わが故郷

スポット

♪コンサートのお知らせ

（青少年用賀地区委員会・児童館共催）

子ども達の音楽活動発表の場である『パークサイドクリスマスコンサート』が今年は12月15日・16日の二日間にわたり開催されます。

15日(土)＝午後5時から
16日(日)＝午後1時から
上用賀アートホールにて

想・桜町小学校創立50周年記念式典が、11月17日に催されました。

防犯ひとくちメモ

年末に向けてひったくりによる被害が懸念されます。

貴重品は手提げ袋よりもなるべくリュックサック型の物に入れ、手提げの場合は壁側に持つ方が安全です。

あとがき

紅葉の季節も過ぎ、まもなく師走です。

今年はアメリカのテロ事件など、予期せぬいろいろな事がありました。

54号は『暮らしの安全』。高齢者、子ども、まちの安全等々をテーマに、それぞれの立場で活動されておられる皆様に語っていただき特集しました。ご参考になればと思います。

久しぶりの短歌『秋愁』を小山先生、北海道が故郷の藤井さん、ラベンダーの花の素晴らしさが、目に浮かびます。

ひろばは、みな様のご意見ご感想を、お待ちしております。（高橋達）

編集・カット 折原